

議案 1. 2017 年度活動実績

1. ネパール研修ツアー

ネパールの内陸的地形に基づく食生活が起因して、ヨード不足による甲状腺の機能不全から、甲状腺腫（ゴイッター）やクレチン症に悩まされている農村地帯；シンズーパルチョーク郡のチョウタラ村とボテシパ村を訪ねた。

『目的』

1. チョウタラ村ではプロジェクトでヨード補給した妊婦の出産後の母子の健康状況を確認するために母子面接すること
2. ボテシパ村ではは救援物資を届き続けてきた震災地の復興状況を視察すること

『経過』

両村にはすでに、公益社団法人アジア協会アジア友の会が、チョウタラ村には、チョウタラ病院付属産院病棟を建築寄附し、その隣村のボテシパ村には水道を引いて水場づくりを何基か支援してきた経緯がありました。両村を管轄エリアにもつチョウタラ病院は当 NPO の妊婦ヨード補給プロジェクトの活動拠点であり、妊婦の通院方々母親支援を実施。

2015 年 4 月 25 日のネパール大震災で殆どの家が全壊してしまい、アジア協会アジア友の会スタッフの典子は、ネパール政府の依頼もあって、この村に日本からの支援の拠点を置いた。壊れた片隅での暮らしの中から、青トタンの仮設住宅が一軒、二軒と建ち始めると、村の復興機運が高まった。そんな矢先、スタッフ・典子は ABC 放送の「世界の村で発見！こんなところに日本人」の番組で、女優・池上季実子の TV インタビューを受けた。この村の近郊は当 NPO 法人の活動エリアでもあることから、塩昆布で有名な、スポンサーのフジッコ（株）より、緊急支援物資として「煎り黒豆」をボテシパ村に数回提供頂いた。

『スケジュール』

	地名	現地時間	交通機関	内容 宿泊	朝食	昼食	夕食
① 2/16 金	関西国際空港 バンコック	15:20 集合 17:25 出発 22:00 着	各自 TG673	D カウンター集合 空港内夕食、ホテル		畿内	自由
② 2/17 土	バンコク カトマンズ ナゴルコット	10:30 発 12:45 着	TG319 専用車	ネパールへ ナゴルコット FORT ホテル 泊	ホテル	畿内	ホテル
③ 2/18 日	ナゴルコット チョウタラ	9:30 ごろ	専用車	・ヒマラヤ山脈、日の出観賞 ・チョウタラ病院等プロジェクト現地視察 PHIDReC 合流	ホテル	レストラン	ホテル

				チョウタラ・アルニコル H 泊			
④ 2/19 月	チョウタラ ボテシパ村 カトマンズ	早朝	専用車	・ボテシパ村へ ・地震支援活動視察 ・黒豆支援物資配布 ・PHIDReC 会食 カトマンズ泊	ホテル	村	レストラン
⑤ 2/20 火	カトマンズ	7:00 ごろ	専用車	・朝 ソエンブーナート見学 ・フジッコ 2 名帰国 ・プロジェクト検討会 (PHIDReC) カトマンズ泊	ホテル	レストラン	レストラン
⑥ 2/21 水	カトマンズ	朝	国内航空	ポカラへ ・鍾乳洞、瀧 ・ネパールダンス The Kuti Resort & Spa 泊	ホテル	レストラン	レストラン
⑦ 2/22 木	ポカラ カトマンズ	朝 午後	 国内航空	朝 ヒマラヤ山脈 ・市内観光 カトマンズ ・市内観光 カトマンズ泊	ホテル	レストラン	ラジヤン宅
⑧ 2/23 金	カトマンズ バンコック	13:50 出発 18:25 着 23:15 発	TG320 TG622	バンコックへ 関西国際空港へ	ホテル	畿内	BKK 空港
⑨ 2/24 土	関西国際航空	06:25 着		到着 解散	畿内		

『チョウタラ』

- 2015 年のネパール大震災でプロジェクト活動拠点のチョウタラ病院は半壊、再建中。
 - ・地震当初はテント棟で診療、現在一部修理して診療継続。
 - ・3 か月前、新赴任した女医さんに面談、プロジェクト継続を伝える
- プロジェクト参加の母子に健康状況の面接

・面談場所 病院、宿泊ホテル、自宅付近

・質問内容 カプセルの効果とヨード添加塩の使用について

a)カルパナ シュレスタ (32) 4人子供の中で一番体力あり

b)ミルミナ (30) 妊娠中元気が出て、出産楽だった。こどもは健康維持

c)パルバティ アディカリ (25) 妊娠中極めて健康的だった。

そのお子さんは震災で死亡。(涙)

d)ビマラ ガレラマ (38) 妊婦としてスムーズに出産できた。

e)ビマラ ガレ (30) 出産後母子ともども今元気。弟と比較して元気。

*カプセルによるヨード補給は母子ともども出産、成長において無補給の場合より効果を自覚された言葉を聞いたことは救いだった。

*ヨード添加塩の使用量では自己推量 5g/日が2家族 10g/日が3家族の情報を、ヨード摂取オーバーが、塩分による高血圧が危惧される (自覚1人あり)

③スリージャン君と10年ぶりの再会

初めての出会いは2001年でした。当時6歳の彼は布団に横たわって日光浴をしていた。母親の頸部の腫れから欠乏症と思い、後追いであるが、カプセルによるヨード補給を行い、椅子に座れるほどに改善。地震で今、体調不良であるが、カプセルでヨードの再摂取に挑戦することを約束して別れた。

3.

『ボテシパ村』

2018年2月中旬、フジッコ(株)社員とNPO法人ネパール・ヨードを支える会の関係者の5人でアジア協会アジア友の会スタッフ・典子さんの案内でボテシパ村を訪ねた。

首都カトマンズから約4時間の凸凹道を揺られて村に着くと、額に赤いデカを付けられ、首に黄色いレイを掛けられ、村人の歓迎を受けた。

村の区長の挨拶で「この震災をきっかけに生活改善に努めたい」と力強いお言葉。村を案内いただくと、仮設住宅の前では老女が孫と遊び、母親達はアジア協会のパイプラインによる水道の水場で洗濯、ヤギや鶏は放し飼い、傍で犬は昼寝など、穏やかな村を垣間みた。

ある老女は、日本の黒豆は美味しいので自宅栽培したいとフジッコ社員に尋ねたり、また、野菜や大根の発酵食品をお土産に頂き、その多様な暮らしぶりに触れた。牛の糞を活用したバイオ発電や少しでも単価を安くするためのブロック煉瓦づくりもあり、向上心の強さを感じた。鶏一匹犠牲になったカレーの昼食を頂いた後、少し離れた中学校で歓迎式が行われた。水色の制服を着た約100人の生徒に囲まれ、来賓の挨拶と生徒の歌と踊りの歓迎をうけた。返礼として、最後にフジッコの「煎り黒豆」を出席者一同に一袋ずつ手渡し、村人と心を交わした。美味しそうに食べる生徒の瞳に未来の希望を見た。



ヨード補給で元気に育ったスミナ（2才）ちゃんと母のミルミナさん



ヨード欠乏で聾啞、歩行困難なスリージャン君



日本の支援で建った仮設住宅



フジッコ（株）より「煎り黒豆」をプレゼント

『提携先 PHIDReC との検討会』

1. 2018.3.20 15.00～17.00

2 結論

- ① 妊婦ヨード補給プロジェクトは継続する。
 - ・ 新任医師とのジョイント
- ② 妊婦と並行して新生児の尿中ヨード検査は採尿が難しい。
 - ・ 新生児の1年後定期検診の際、希望者のみ検尿に挑戦、

③ 実施エリアの新規拡充を検討する



PHIDReC 事務所前





3. フジッコ（株）製「煎り黒豆」500袋ボテシパ村生徒に配布

- ・2018年2月19日 訪問時に手渡し

4. 妊婦ヨード補充 プロジェクト

(ア) 活動拠点のチョウタラ病院の担当医の空席により具体的活動は実施できなかった。

(イ) これまでの実施結果から、ヨードの過剰摂取が問題点として浮上し、食塩の濃度調査を実施。

(ウ) 食塩検査

- ・サンプル Rama Devi Secondary School、Nepal

- ・検査 フジッコ（株）開発本部研究室

期間 2017年10月～2018年2月

(エ) 調査結果

- ・ネパール政府基準 5.0mg/100g
- ・平均値 6.21
- ・標準偏差 3.04

(オ) 問題点

・ヨードの濃度の平均が基準より 20%も高く、バラつきも大きいので、生産工程上の品質管理に問題がありそうだ。

一方、食塩の一日の摂取量も、基準根拠となる 5 gm/1 日越えての消費も起因になるので、来期の調査計画を準備している。

その結果次第では、ネパール政府に、見直し提案も準備したいと思っています。

5. ネパール大震災被災地対策 WASK プロジェクト 2017 年度

セーター供与計画

実施場所 Gupteshwor Lower Secondary School, Lalitpur, Nepal

校長 ; Mr. Prem Bahadur Nepali,

協力者 : Mrs. BalKumariSubedi

実施 2017 年 12 月 24 日

委託先 Public Health and Infectious Disease Research Center (PHIDReC)
Nepal

内容 対象生徒 280 名

防寒用セーター 280 着

*本来なら、石鹸、歯ブラシ、歯磨き粉の WASH キットを配布して、被災地の衛生と栄養の教育を実施するのであるが、現場の防寒の支援を優先せざるを得なかった。

6. SENID ニュース 2017 号 発行 (9 月)

7. ネパール Kutumba 楽団コンサート協賛

・場所 ドーンセンター

・月日 2017 年 11 月 26 日 (日) 15 時

8. 第 9 回会員総会実施

会場 フジッコ (株) 本社 会議室

日時 2017 年 5 月 28 日 15 時

議案 3. 2018 年度活動計画

1. 妊婦に対するヨード補給と栄養・生活教育

- ・場所 国立チョウタラ病院（シンズーパルチョーク郡）
- ・妊婦 100 名
- ・内容 尿中ヨード濃度検査（妊婦、一部新生児）
栄養・生活教育
ヨード補給のための昆布ミネラルカプセルの供給
- ・テーマ

新生児の尿中ヨード検査を 1 歳時検査の時に検査のための採尿依頼をする
ヨード欠乏症の罹患率ゼロを期待する

2 市販ヨード添加塩の家庭における消費量調査

- ・場合によっては、ヨード濃度検査のための食塩調査も併せて行う。
- ・ネパール政府の見直し提言の準備

3. ネパール大地震被災地救援活動

- ・トイレの衛生教育と栄養教育の教育支援
- ・シンズーパルチョーク郡教育庁とタイアップ
- ・対象 シンズーパルチョーク郡優先で考える
- ・健康キットの配布 500 名

議案 4. 2018 年度収支計画

「収入の部」

・会費	300,000
・助成金	400,000
・寄附	300,000
計	1,000,000

「支出の部」

・業務委託費	400,000
・一般管理費	500,000
・その他	50,000
計	950,000